

## 戦間期の東アジア国際政治

服部 龍二・土田 哲夫・後藤 春美 編著

2007年6月28日発行

中央大学出版部 発行

本体価格 7,300円(税別)

まえがき		
第1部 第一次世界大戦後		
第1章	孫文の「中独ソ三国連合」構想と日本 1917-1924年 —「連ソ」路線および「大アジア主義」再考—	田嶋 信雄
第2章	原内閣期における朝鮮の官制改革論	李 熒 娘
第3章	排日運動と脱欧入亜への契機 —移民問題をめぐる日米関係—	簗原 俊洋
第4章	国際連盟の対中技術協力とイギリス 1928-1935年 —ライヒマン衛生部長の活動と資金問題を中心に—	後藤 春美
第2部 柳条湖事件から盧溝橋事件へ		
第5章	満州事変後の日中宣伝外交とアメリカ —「田中上奏文」を中心として—	服部 龍二
第6章	1935年中国幣制改革の政治史的意義	樋口 秀実
第7章	国際平和運動と日中戦争 —「世界平和連合(RUP/IPC)とその中国支援運動—	土田 哲夫
第8章	ホーンベック国務省政治顧問の対日強硬化と アメリカの日中戦争観 1937-1938年	高光 佳絵
第3部 日中全面戦争		
第9章	日中開戦後の日本の対米宣伝政策 —「正義日本」の宣明から文化事業へ—	高橋 勝浩
第10章	興亜院設置問題の再検討 —その予備的考察—	加藤 陽子
第11章	有田八郎外相と「東亜新秩序」	服部 聡
第12章	贅沢な用心棒? —抗戦期在華米軍人の日常生活—	深町 英夫
あとがき		